

eco エコ ひらいずみ

ストップ! 地球温暖化

発行
ひらいずみ地球温暖化対策協議会
(略称：エコネット平泉)

平成30年3月1日

(事務局)平泉町役場町民福祉課内
電話 0191-46-5562 FAX0191-46-3080
メール chomin@town.hiraizumi.iwate.jp

30年後の未来を考える

【30年前の日本】

皆さんは30年前、どこでどうされていましたか？ちょっとだけ思い出してみてください。

30年前はちょうど昭和と平成の間、全国的にはバブル時代を迎えて消費が活発になり初めた時期でした。映画「となりのトトロ」が公開されたのも、国鉄が民営化されてJRになったのも30年ほど前のことです。カメラはフィルム、インターネットも携帯電話も普及前。それどころかポケベルを持っている人でさえまだ少ないという時代でした。

【30年後、2050年の日本】

さて、それでは30年後の未来はどうでしょう。想像できますか？

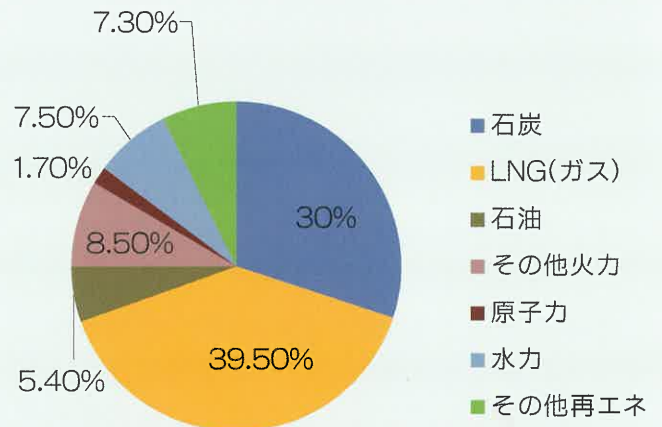
スマートフォンやタブレット端末は過去のパソコンの性能を遥かに超え、インターネットの普及率はすでに頭打ちとなってきた現在、未来に向けて大きな変革の波が押し寄せている分野が二つあります。1つめはエネルギー分野、2つめが産業分野の、特に自動車産業です。

【エネルギーの変革】

日本では国際的な取り組みに即して、今後30年程の間に二酸化炭素を大幅に削減しなければなりません。※1

これは言い換えれば石炭・石油などの化石燃料に頼った現在の社会を変えなければならないことを意味しています。まずは現状を見てみましょう。

日本の電源構成比率
(2016年)



日本国内で排出される温室効果ガスの大部分が発電所から排出されていることに着目し、発電方法ごとの比率をグラフ化したのが上の図です。(「その他再エネ」の項目は太陽光・風力・バイオマスなどが含まれています。)これを見ると、水力を含めた再生可能エネルギー発電の比率は15%にも満たず、現在日本の電力の大部分が化石燃料を使用した火力発電であることがわかります。しかも新たな石炭発電所の建設計画が今現在40件以上あり、今後更に火力発電所が増える見込みなのです。

今15%ほどに留まっている再生可能エネルギー比率をあと30年でどれほど増加させられるか、個人ではなかなか難しい問題です。しかし、私たち大人が子や孫の世代のために今から真剣に考えていかなければならない問題なのです。
(裏面へつづく)

【自動車の変革】

さて、大きな変革の波が押し寄せている2つめの分野、自動車産業について考えてみましょう。現在さまざまな国や自動車メーカーが電気自動車へ方向転換していることはニュースなどでご存知のかたも多いでしょう。それにはいくつか理由があります。

1、電気自動車は走行時に温室効果ガスを排出しないためクリーンだということ

電気自動車は走行時に排気ガスを出さず非常にクリーンです。しかし本当に環境負荷が低くなるかどうかは、電気自動車の電力消費率と、充電する電気の発電方法によります。低効率の火力発電(従来の石炭火力発電など)の電気を使うと環境負荷は逆に上がってしまうため、環境のために電気自動車を使うには発電方法や発電効率を上げる必要があります。

2、欧州での燃費偽装問題に端を発するエンジン排除の流れ

新車の排気ガス測定の際に故意に結果を良くするプログラムを適用していた問題が発端となり、欧州をはじめとしてエンジンからの脱却が叫ばれています。

3、今まで自動車産業に参入できなかった国の期待

これまで、数多くの複雑なパーツでできているエンジンを設計して量産できるのはごく一部の会社だけでした。それが電気自動車になると一番のネックだったエンジンが必要なくなり、モーターがその代わりを担います。モーターやバッテリーを作ることのできる会社は世界中に数多くあるので、今まで自動車産業に参入できなかった会社や国がこの機を逃すまいと電気自動車を推進しているのです。

以上、大きく分けて上記3つの理由から電気自動車への転換が進められており、今後は更に進化した電気自動車が出てくるでしょう。その一方で、一部国内メーカーでは従来のエンジン



を大きく凌ぐ環境性能のエンジンが開発されています。身近な自動車が30年後にどのようなになっているのか楽しみです。

【30年後の日本は…】

ここまで現在の日本に押し寄せる変革の波をみてきました。国内の発電所でも30年後は今より再生可能エネルギー比率が高まるはずですが、しかし石油や石炭といった化石燃料とは切っても切れない状態にある可能性が高いでしょう。その一方で身近な自動車はほとんどが電気自動車や、もしかしたら燃料電池車になっているかもしれません。

【最後に】

アメリカン・インディアンのことわざに「自然は先祖から預かったものではなく、子孫から借りたものである」というものがあります。私たちが社会の大きな流れを直接変えることはとても困難です。しかしひとりの消費者として子孫に残したいものを考えた時、契約する電気会社や購入する車などを見極めていくことが、これまでよりも大切な意味を持つ時代になっていくでしょう。

※1…2015年に採択されたパリ協定により、日本を含む各国では温室効果ガス排出量を削減することが決まりました。日本では1990年の排出量から80%削減しなければなりません。

視察研修報告

私たちひらいずみ地球温暖化対策協議会では毎年テーマを決めて視察研修を行っています。今年度は研修のテーマを「カーボンニュートラル」に定め、様々な形で木材が利用されている遠野市に向かいました。

そもそもカーボンニュートラルとは…

人が何かを生産したり何か活動をする前後の空気中の二酸化炭素量が等しくなることを意味します。例えば木材を燃やした際に出る二酸化炭素量は、木材が吸収した二酸化炭素量を超えることがないためカーボンニュートラルに近い状態になります。

①遠野エコネットとの交流

まずは遠野エコネット代表の千葉 和さんからどのような活動をされているか伺いました。

遠野エコネットでは間伐材の利用促進や間伐ができる人の育成、炭焼体験など、木に関連した活動が盛んです。夏にはエコキャンプや猿ヶ石川にいる魚類のモニタリング調査なども行うそうで、私たちとは違う方法で活動している様子に刺激を受けました。



②たかむろ水光園のチップボイラー見学

入浴・宿泊施設のたかむろ水光園では、地元産の木材を燃料にして稼働する新型のチップボイラーを導入しています。これまで石油にかかっていた燃料代を年間最大で1,500万円ほど節約することができ、災害時にも対応できるようになっています。燃料が木材のためカーボンニュートラルに近い形で運用可能です。

③遠野風の丘(道の駅)

道の駅「遠野風の丘」に風車があることをご存じの方は多いのではないのでしょうか。右の写真の風車はスパイラルマグナス風車というタイプの風車で、ブレードがらせん状になっているのが特徴です。このほかにも遠野市と大槌町間の山間部には風車が立ち並んでおり、日々発電を続けています。



まとめ

今回の研修では自然を上手に活用する遠野の姿を見てきました。単に昔の生活を続けるのではなく、今の技術を活かしてカーボンニュートラルの状態に近づけつつ、自然と共生してより良い暮らしにしていく新たな風を感じることができました。

映画「日本と再生」鑑賞会

再生可能な自然エネルギーの学習会として役場大会議室で映画「日本と再生」の鑑賞会を開催しました。

東日本大震災による東電福島原発事故を機に原発の稼働が停止している日本では、電力のほとんどを火力発電に頼っており、国では原発の再稼働を推進している状況です。このような中で太陽光・風力・バイオマスなどの再生可能な新エネルギーが見直されていますが、その比率は約7%にすぎません。

この映画は国内各地とドイツ・デンマーク・中国・アメリカなどを旅して、クリーンで安価で、しかも儲かる自然エネルギー導入の事例を記録したものです。もうすでに世界を動かしている自然エネルギーに対し、「では日本はどうすればいいか」という解決策を出すことに注力して構成されており、とても前向きなものでした。

当会では今後も機会を見てこのような映画鑑賞会を企画して町広報紙などでお知らせしますので、皆さんもぜひご参加ください！



環境講演会

- 日 時 平成30年3月24日（土曜日）13時30分～15時00分
- 会 場 役場2階 201会議室
- 内 容 「地球温暖化と身近な自然環境」
- 参加費 無料
- 講 師 岩手県環境アドバイザー 阿部 慶元 氏

記録的な大雪と厳しい寒さが続いているこの冬、地球の温暖化との関連はあるのでしょうか。また、サケやサンマの不良など、食卓にも少なからず影響が現れているようです。身近な自然環境の変化と地球温暖化についてみんなで考えてみたいと思います。

地球温暖化対策に取り組む会員募集中!!

ひらいずみ地球温暖化対策協議会（略称：エコネット平泉）に入会して、温暖化対策と一緒に取り組みませんか。協議会の目的に賛同する個人・事業者・団体で地球温暖化対策に関心のある方、これから取り組みを実践してみたい方ならどなたでも入会できます。

- 年会費 ■ 個人会員 500円 事業者・団体会員 1,000円
- 入会を希望する方は、お気軽に協議会事務局にお問い合わせください。

ひらいずみ地球温暖化対策協議会（エコネット平泉）

事務局 平泉町町民福祉課内

TEL：0191-46-5562 / FAX：0191-46-3080

